

屋内スケート施設整備に係る調査結果（パターンごとの比較）について

◎ 調査結果

- ・ **固定席数**：先行事例や近年のアイススポーツの東北大会等の観客数（アイスホッケー（約80人～500人）、フィギュアスケート（約50人～400人））の状況から、基礎調査で示した500席程度があれば、東北大会レベルの大会までは開催が可能。なお、アイスショーなど多様なシーンでの利用については、仮設席等の可動設備により対応。
- ・ **サブリンク**：多様なニーズ（下表参照）に応えるため、過去15年で供用開始した11施設中9施設（82%）がサブリンクを設置。

◎ パターンごとの比較（通年型を想定、金額は令和5年度の基礎調査より）

	サブリンクなし	サブリンクあり
固定席 500席	整備費：約43億円 年間負担額：約44百万円（支出 99百万円－収入 55百万円） ※仮設席等の可動設備の設置により、2,000人～3,000人収容可 ○整備費が最小 △競技スポーツ利用時や教室開催時には、リンクの使用が制限される △スケート施設に不慣れな利用者への十分な配慮が困難	整備費：約50億円 年間負担額：約48百万円（支出 109百万円－収入 61百万円） ※仮設席等の可動設備の設置により、2,000人～3,000人収容可 ○メインとサブで「アイスホッケーとカーリングの同時利用」や「一般開放とスケート教室の同時実施」など活用可能性が拡大 ○サブリンクはフェンスが低く、大きさもコンパクトなため、子どもや初心者が安心してスケートを楽しめる環境として有効 ○固定席1,500席の場合と比較して、整備費が約▲7億円 △年間負担額が最大
固定席 1,500席	整備費：約50億円 年間負担額：約41百万円（支出 100百万円－収入 59百万円） ※仮設席等の可動設備の設置により、4,000人～5,000人収容可 △競技スポーツ利用時や教室開催時には、リンクの使用が制限される △スケート施設に不慣れな利用者への十分な配慮が困難 △近年の大会等の観客数の状況を鑑みると固定席数が過大	整備費：約57億円 年間負担額：約46百万円（支出 110百万円－収入 64百万円） ※仮設席等の可動設備の設置により、4,000人～5,000人収容可 ○メインとサブで「アイスホッケーとカーリングの同時利用」や「一般開放とスケート教室の同時実施」など活用可能性が拡大 ○サブリンクはフェンスが低く、大きさもコンパクトなため、子どもや初心者が安心してスケートを楽しめる環境として有効 △近年の大会等の観客数の状況を鑑みると固定席数が過大 △整備費が最大